

薬師岳山行報告

【山行日】2022年 7月 29(金)～31(日)

【集 合】岩舟支所 P AM 2:30

【費 用】マイカー1台 : 37,800円

【メンバー】CL:鈴木、SL:廣瀬

安西、石澤、関、福島

7月29日(金) 室堂から浄土山へ登り、鬼岳・獅子岳、ザラ峠を通過して五色ヶ原山荘へ

岩舟支所 P2:30 = 立山駅 6:20/7:40+++ 室堂
8:40/9:00～浄土山 10:20～鬼岳 11:40/12:10～獅子岳
13:30～ザラ峠 14:15～五色ヶ原山荘 15:20



いよいよ夏のビッグ山行薬師岳のスタートである。岩舟支所を2時30分に出発し、北関東道から上信越道、北陸道を進み立山ICで降りて立山駅の駐車場に車を止める。支度を整えたら立山駅まで歩き、ケーブルカー乗り場で改札時間まで待つ。今回は廣瀬さんにWebでチケットを予約してもらったが、始発から7時20分まで売り切れで7時40分がかりうじて購入できた。7時40分発のケーブルカーに乗り、美女平でバスに乗り換え約1時間で室堂バスターミナルへ着く。トイレを

済ませたら階段を上がり、室堂平へ出てストレッチを行い出発する。天気は晴れているが雲が多く、雄山や剣岳は雲の中で見ることが出来なかった。広い石畳の道を一ノ越に向かって進み、途中から右に室堂山に向かって登って行く。急な登りなのでゆっくり登り、途中のベンチで一息入れて呼吸を整える。振り返ると室堂平の残雪とハイマツのコントラストが素晴らしく、豪雪地帯ならではの見事な景色に皆さん笑顔がはじける。室堂山展望台に向かって登り、展望台手前の案内標識に従って左に進む。雪渓を渡って行くと浄土山への急登になり、岩が積み重なった登山道にペースが上がらない。岩の急坂を登りようやく浄土山山頂に着き、少し先の一ノ越への分岐で小休止する。本来ならここからの景色は最高の場所だが、今日は雲が多く雄山や大汝山、別山はほとんど雲に隠れていた。目の前に見える龍王岳に登って行く計画だったが、予定より遅れているので登らずに鬼岳に向かう。



龍王岳の西側を巻いて、南面に出た所から下って行く。岩場の下りになるが、ハクサンフウロやミヤマキンポウゲ等の花が咲き、花を楽しみながら下って行く。浄土山への登りで猛烈な勢いで追い越



して行った男性二人が登って来て、「さっき追い越して行きましたよね？どこまで行ってきたのですか？」と聞くと「この先で滑落事故があり、救助してヘリに乗せてきました。」との返事。立山の富山県警山岳救助隊のお2人だった。我々も滑落しないように、慎重に下って行く。鬼岳との鞍部に出ると大きな岩塊が点在し、ここから稜線の東側を進む。鬼岳から派生する小尾根に出て、雪渓を横断して再び尾根に登る。尾根の平坦な場所でランチタイムとし、お湯を沸かしてカップ

麺やスープを作る。雄大な景色を楽しみながらおにぎりやパンを食べ、お茶を飲んだら出発する。

ここから大きな雪渓を横断するが、ハシゴで雪の溝に降り溝を進んで再び雪渓に上がる。長い雪渓のトラバースになり、滑らないように慎重に通過する。雪渓に慣れていない人にとっては、かなり手強い場所である。雪が消えた所から、ハクサンフウロやハクサンイチゲ等が岩の間に華やかに彩っている。獅子岳まで登ると鬼岳や龍王岳、雄山が望め、反対側には五色ヶ原の全貌が望める。山頂から黒部側を緩やかに下り、急な下りになるとハシゴを2本通過する。ザレた急坂をザラ峠まで下って行くが、このあたりから空模様が怪しくなってくる。ザラ峠まで下り、ここか



らはほぼ稜線上を登って行くが、雨が降り出してきた。レインウエアーを着てしばらく登ると五色ヶ原の一角に出る。木道を歩くようになると雨も小降りになり、明るくなって五色ヶ原の花々が出迎えてくれた。キャンプ場への道を左に分け、右に木道を進み花々を楽しみながら登ると五色ヶ原山荘に着く。受付を済ませて、男女分かれて2部屋に案内される。部屋に落ち着いたら荷物を整理し、濡れた衣服を乾燥室で乾かす。五色ヶ原山荘には風呂があり、16時から男性の入浴タイ

ムで先に汗を流す。15分後に女性の入浴タイムで、女性達が風呂から上がったならビールで乾杯する。宴会が済んだら夕食となり、山荘の夕食を美味しくいただいた。夕食が済んだら部屋に戻り、明日の準備をして早めに床に就いた。

7月30日(土) 五色ヶ原を散策後鷲山に登頂し、越中沢岳からスゴノ頭を經由してスゴ乗越小屋まで縦走する。

五色ヶ原山荘 6:00～五色ヶ原散策 6:20～鳶山 7:20～越中沢岳 9:10/9:20～スゴノ頭 10:40/11:15
～スゴ乗越小屋 13:20

朝起きて窓の外を見ると快晴で、鳶山の稜線が青空の中にくっきりと見えていた。「これです。この



景色を見せたかったのです。」とつぶやきながら食堂に向かった。山荘の美味しい朝食をいただき、トイレを済ませたら外に出てストレッチを行う。出発前に昨日雨で見られなかった五色ヶ原を散策し、素晴らしいお花畑を堪能する。木道を反対方向に進むと、昨日は見えなかったハクサンコザクラが一面に咲いていて、その向こうにはコバイケイソウの大群落が広がっている。チングルマやハクサンイチゲも咲いていて、まさに雲上の楽園である。お花畑を満喫したら山荘まで戻り、記念写真を撮ったら鳶山に向

かう。チシマザサの間の木道を進み、チングルマと岩の道を登ると鳶山頂上に着く。山頂からの眺望は素晴らしく、五色ヶ原から龍王岳、雄山も見える。そして行く手には越中沢岳が悠然と構え、そのはるか先には目指す薬師岳が見えている。真っ青な空に聳える薬師岳はドッシリとして、北アルプスのジャイアントと称されるにふさわしい堂々とした山容である。去年登った黒部五郎岳や鷲羽岳も見え、その奥には槍ヶ岳も見ることが出来た。皆さんも雄大な景色に感動し、スマホで写真を撮りまくっていた。鳶山からの下りはハイマツと露岩のヤセ尾根を下り、鞍部まで下ると広々とした斜面の登りになる。越中沢岳への登りは実に穏やかで、景色を楽しみながらゆっくりと登って行く。



ところが山頂に着く頃から、あれだけ晴れていた空に雲が広がり、今にも降り出しそうな空模様にな



って来た。越中沢岳からの下りは登りとは違って変わり、いきなりの急傾斜となり岩や灌木に掴まりながらの下降となる。今回のコースの中で最もきつい下りと言っても過言ではなく、ようやく鞍部まで下って登り返す。下っている間はガスが掛かり、スゴの頭でランチの予定だが「スゴ乗越小屋まで行ってランチに変更か」と話していた。ところがスゴの頭へ登ると明るくなり、薄日が差してきたので予定通りここでランチタイムとする。お湯を沸かしてカップ麺やスープを作り、

パンと一緒にいただいた。お茶を飲んだら後片付けして、スゴ乗越に向かって下って行く。

ハイマツと大きな岩の間を縫うように下って行くが、岩の段差が大きく下るのに難儀する。スゴ乗越の手前から雨が降り出し、今日もレインウエアを着ることになる。

ようやくスゴ乗越まで下り、スゴ乗越小屋は直ぐだと思ったが中々着かない。ツガやシラビソの樹林



帯の道を、小刻みにアップダウンを繰り返し雨の中を登って行く。ようやく平坦な道になりスゴ乗越小屋のテニ場に着いた。テニ場の脇を進むと小屋が見え、スゴ乗越小屋に到着した。小屋の前に屋根付きの休憩ベンチがあり、そこでレインウエアーやザックカバーを外し、小屋に入って受け行けを済ませる。濡れた物を乾燥室に干して、指定された2階の部屋に落ち着く。

シャツやズボン、タ

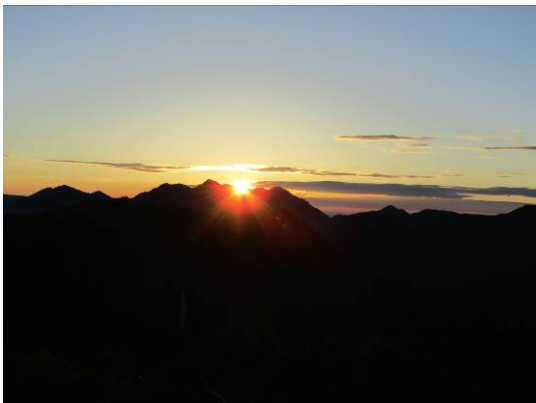
イツなどを着替え、濡れた物は乾燥室に干してくる。荷物の整理が終わったら1階の談話室に行き、今日の反省会を始める。ビールで乾杯し、今日登って来た山の話や、明日登る薬師岳の話で盛り上がる。お酒に切り替えると舌好調になり、今年これから登る飯豊山や屋久島、来年登りたい山等々賑やかに過ごした。5時から夕食になり、食堂に移動して美味しいハンバーグをいただいた。夕食が済んだら明日の朝食の弁当を受け取り、部屋に戻って早めに床に就いた。



7月31日(日) スゴ乗越小屋から間山に登り、北薬師岳をへて薬師岳山頂に登頂後、太郎平～折立に下山し岩舟支所へ帰着。

スゴ乗越小屋 4:00～間山 5:30/5:40～北薬師岳 8:00/8:10～薬師岳 9:20/9:40～薬師岳山荘 10:20～太郎平小屋 12:20/13:00～三角点ベンチ 15:30～折立 16:20/16:30=白樺の湯 16:55/17:45=岩舟支所 P22:50

3時に起床し、昨夜いただいた朝食弁当をさっさと食べ、トイレを済ませたら外に出る。ヘッドランプを点け、小屋の前の休憩所にザックを置き、ストレッチを済ませる。今日はロング行程なので4時に出発し、ヘッドランプの灯りを頼りに歩いて行く。登山道は昨日の雨で水溜りや泥濘が多く、足場を選びながら慎重に進む。



先頭は濡れた笹や草で靴が濡れな

いよう気を使いながら歩くが、後続がついて来ず度々待ちながら登って行く。間山手前で日の出迎え、荘厳なご来光に思わず手を合わせる。明るくなると周りの山々が見えるようになり、これから目指す薬師岳が朝日を受けて素晴らしい。ハイマツの稜線を爽快に登り、間山の頂上で休憩し朝食タイムを取るが、皆さん小屋で済ませ菓子だけいただく。



間山からの眺望は素晴らしく、これから登る薬師岳はもちろん、赤牛岳や水晶岳、烏帽子岳等が望める。間山を過ぎると樹林帯からハイマツ帯に変わり、岩が積み重なった岩稜を登るようになる。大きな



な岩から岩へ飛び渡って行くが、後続が遅れ始め付いて来ない。今まで晴れていてルンルン気分で歩いていたが、北薬師岳の手前からガスが掛かり視界も悪くなる。少し急がねばと思いペースを上げるが、岩を渡る歩きは苦手なようで付いて来ない。ようやく北薬師岳に着いたが、ガスで視界が無く行動食を食べ記念写真を撮ったら出発する。時折ガスが晴れると金作谷カールが見え、雄大なカールの光景に歓声が上がる。ヤセた岩尾根をアップダウンを繰り返し、

少しずつ高度を上げて行くが中々ペースは上がらない。最後の急坂を九十九折れに登ると、薬師如来が祀られた薬師岳山頂に立つ。山頂に着くとガスが晴れ、陽射しも得られて大展望を楽しむことが出来た。山頂標識や薬師如来が祀られた祠の前で記念写真を撮り、雄大な景色を楽しみながらご褒美のナシやゼリーをいただく。この景色を見られなかったら、苦勞して立山から縦走する甲斐が無い。存分に展望を楽しみ、景色をスマホに収めたら下山開始する。稜線を南に下り中央カール、南鐮カールと連続するカールを見ながら爽快に下って行く。皆さんも雄大なカールの景色を見られ、



「登って来て良かった」と笑顔で景色を満喫していた。迷いやすい東南稜へ下らないよう慎重に進み、右下にザレた砂礫の登山道を下って行く。広い尾根に九十九折れに付けられた道を下ると、薬師岳山荘に着く。この時点で計画より1時間遅れており、折立でタクシーを予約した2時にぎりぎりの時間である。ここからはSLに4人をお願いし、我輩は先



行して折立に向かうことにする。お花畑の斜面を下り、しばらくすると薬師平の広いお花畑に出る。この先から登山道は沢の中を歩くようになり、水の流れを何度も横切りながら沢を下る。今日のコースで最も大変な下りで、後続の5人は無事下れるかなと心配しながら下って行く。道が沢を離れると薬師峠のキャンプ場になり、キャンプ場から少し登ると草原になり、木道を緩やかに下ると太郎平小屋に着く。



ここは、黒部源流を巡る登山路の要の位置にあり、去年登った雲の平や黒部五郎岳等、各方面に向かう登山者で賑わっていた。登山者の皆さんは、小屋名物の太郎ラーメンやカレーを食べていた



が、我輩はパンを2個を急いで腹に押し込んだ。

タクシー会社にTELLし、「今から下ります」と伝えて12時丁度下山開始する。最初の緩やかな下りは軽快に下るが、五光岩ベンチの先から足が進まない。天気は晴れていてお花が綺麗、真っ青な有峰湖に向かって下る最高の景色だが足が重い。と言うか、スピードを上げると転倒しそうで、怖くて早く下れない。ズーと若者二人組が後ろに着いて来たが、傾斜が急になった所で一気に抜かれ置いて行かれた。

三角点ベンチで若者二人組が休んでおり、我輩が先行して下って行くが、途中で再び抜かれドンドン離れて行き歳の差を思い知らされた。2時までに着けるか不安になって来たが、何とか5分前に下山出来タクシーで車回収に向かう。立山駅の駐車場で車を回収し、急いで皆さんを迎えに折立に向かった。3時30分に着きSLにTELを入れるが繋がらない。K澤さんにTELすると繋がりと状況を確認すると三角点ベンチを出た所だが、雨が降って来てレインウエアーを着ているとの事。折立はまだ雨は降ってなかったが、4時過ぎから雨が降り出してきた。4時20分に皆さんが到着し、レインウエアーを脱ぎ靴を履き替えたらずに車に乗り込み出発する。途中、亀谷温泉「白樺の湯」に寄り、3日間の汗を流し疲れを取る。白樺の湯は、国民宿舎「白樺ハイツ」が廃業し、地元有志が銭湯として復活させリニューアルオープンさせた湯である。入湯料は440円と安い、石鹸やシャンプーは持参で、無い人は100円で購入できる。我々も石鹸、シャンプーを購入し、ゆっくり温泉に浸かり汗を流した。温泉から上がったら帰路につき、立山インターに向かって出発する。いつものイン



ター手前のガソリンスタンドに行くと、なんと臨時休業の張り紙が…。給油ランプが点いて50Km以上走っており、高速道に入る前に給油しないと間に合わない。仕方が無くネットでスタンドを探して、立山市街に戻るが2軒目・3軒目のスタンドも休業日。

4軒目のスタンドに行くと店を閉める寸前で、かろうじてセーフで間に合った。店の親父の話では「もう閉めようと思ったが、電源を落さないで良かった。電源を落したら入れられないからね。」と言われ、ホッと

胸をなで下ろした。立山インターから北陸道に乗り、有磯海SAで夕食を食べ東部湯の丸SAで買い物とトイレを済ませ、無事岩舟支所に帰着した。3日間雨に降られたが、午前中は晴れて展望が得られ、雪渓あり、岩稜あり、お花畑ありの変化に富んだロングコースを歩き、思い出に残る山行となった。